



2025年3月4日(火)
余市養護学校しりべし学園分校
文責：研究情報部
第5号

年度末が近づいています。いよいよ研究もまとめの時期となりました。今号では、2学期に行われた小・中学部の研究授業について振り返ります。今年度の授業は残り少ないですが、研究で取り組んできたことを今後活かしていけると良いですね。

公開授業 中学部美術「巨大クリスマスツリーを作ろう」



授業の概要

本単元では、身の回りの色に着目することを目的に、画用紙などの既存のものではなく、自ら制作に必要な色を校内から探し出す活動を設定しました。本時では、完成までの見通しをもったり、活動の目的を意識したりできるよう、ツリーの完成イメージを事前に伝え、生徒一人一人がタブレット端末を活用し、校内を散策しながら必要な色を見つけ、画面いっぱい色に写るよう工夫する様子が見られました。また、活動の終了をわかりやすくかつ意識できるようにするため、それぞれのタブレット端末のタイマーを設定してから散策に向かうようにしました。活動後には、見つけてきた物を共有することで、友達の着目した場所や物を知ったり、校内にはたくさんの色が溢れていることに気づけたりできるようにしました。

使用したアプリ

カメラ、タイマー



成果

- カメラで撮影するという単純な活動内容であるため、実態幅の大きい集団であったが、それぞれ主体的に活動する様子が見られた。
- 事前に色について、同じ色にもたくさんの種類があることを確認してイメージを広げたことで、生徒たちは積極的に自分の探すべき色を見つけて主体的に撮影する様子が見られた。
- タイマー機能を活用したことで、自分で時間を意識して活動することができた。

課題

- 撮影してきた色を全体で共有する際、タブレット端末の操作がもたついてしまう場面があった。生徒の注意が逸れてしまう時間を作らないようにするためにも、教師側が操作に慣れておく必要があるほか、共有の方法について検討が必要である。
- 生徒の行動によって、授業の流れが逸れていってしまうことがあった。目的やねらいを見失わずに進める必要がある。

授業検討会後の改善の方向性について

【授業者 瀧上先生より】

活動内容が明確だったことや生徒全員が一台ずつタブレット端末を使用したことから、生徒の主体的な活動につながることができました。一方で発表の場面やスライドの提示の際に授業の流れが滞ったこと等が課題として残ったため、今後は教師自身がタブレット端末の操作に慣れたり発表の仕方を工夫したりする等、授業展開が円滑になるように授業づくりをしていきます。例えば各生徒のタブレット端末にある写真等を一つの端末に集めてから全体で共有するなど、共有の仕方を工夫していこうと思います。またその際には Air Drop や Google ドライブ等共有の方法についてよく学んだ上で、生徒の実態や日常的な ICT の活用状況をもとに検討していきます。

公開授業 小学部音楽「季節の歌」

授業の概要

本単元では、歌、楽器遊び、身体表現、鑑賞の4つの活動を行いました。児童が見通しをもって授業に参加できるように、活動の流れをスライド示し、注目してほしいタイミングで効果音を活用しました。リズム打ちの「おもちゃのチャチャチャ」では、手を叩くところをアニメーションを使って提示することで、タイミングを意識できるようにしました。楽器当てクイズでは、楽器の音を聞いて、タブレットにある選択肢のイラストの中から選ぶ活動を行いました。音をよく聴き、正しくイラストを選ぶ姿が見られました。

授業の振り返りにはGoogle Formを使用し、児童が自分の顔写真、授業の感想、本時の内容で一番楽しかった内容をイラストや写真でタップし選択する活動を取り入れました。

使用したアプリ

Keynote、Google forms、Capcut

成果

○本時の内容を提示する際やクイズの回答



後に効果音を使用することで、児童がスライドに

注目することができ、児童の興味関心が引き出せていた。

○リズム打ちの練習では児童がスライドを見ながら手拍子をし、楽器当てクイズではスライドから流れる音をよく聞いてタブレットを操作しクイズに答える等、積極的に授業に参加する場面が見られた。

課題

- 他の児童の活動を待つ間の工夫や、効果的なタブレットの使用方法について検討する必要がある。
- 手本動画などについては、児童の実態に応じて提示する情報を精選する必要がある。
- 本時に限らず、普段の学習習慣を身につけることや、STの教師の適切な動き方について共通理解が必要である。
- 振り返りでGoogle Formsを使用したがるが、児童の実態を考慮すると、写真や動画で振り返りを行ったほうが具体的にイメージしやすい可能性もある。目的に応じた手段の選択が必要である。

授業後の改善の方向性

【授業者 寺門先生より】

小学部では、授業中に児童が立ち歩く、興味をもてず授業に向き合えない実態があったため、ICTを使用して児童の興味を授業に向けられないかと考えました。これまでの授業では、授業進行表をホワイトボードに貼って磁石を目印にし、移動させながら進行していましたが、磁石を動かしたくて立ち上がってしまう児童もいました。進行表をkeynoteで示し音を出すことで児童の注意を引くことができるようになりました。次の活動を楽しみに見通しをもって授業を受けられるようになりました。クイズ形式で楽器の音を当てたり、ゲーム形式で手拍子を練習したりすることで積極的に参加できるようになりました。

まだ活動の合間に立ち歩いてしまう児童もいるので、授業検討会を受けてタブレットを児童の席まで教師が持って行ったり、楽器を教師が運んだりして、児童が立ち上がらなくてはならない場面を減らすようにしています。

1年間お疲れ様でした。来年度の重点教育目標は、「知的障害教育の専門性に基づく、児童生徒一人一人への適切な指導や支援の充実」です。研究のまとめで示したとおり、来年度は専門性向上のための研修の1年となりそうです。来年度も、教職員一丸となって研究に取り組んでいきましょう！

